



## 日本珪素医療研究会

## 水溶性珪素の研究成果を発表

## 第8回臨床発表会を開催

る「水溶性珪素 umomer (ウモ)」は、原料マークの岡田憲社長がいさせて、「日本珪素医療研究会は当初、珪素にまつわる医療関係者の情報交換・交流の場として発足した。」

・品川のアリスアクリアガーデン品川で、第8回臨床発表会を開催した。参加した医師や研究者は、水溶性珪素を用いた臨床例や、珪素関連の最新データの発表などを行った。富山県立大学工学部工学科の立田真文准教授ら4人の会員が、水溶性珪素の研究成果について発表した。立田准教授は、新たな研究成果を基に、「非晶質（アモルファス）の珪素」であることの重要性を改めて訴えた。な

塘、「まだ何もない」と、  
ろから、水溶性珪素の認  
知拡大に取り組んでき  
た。使った人に喜んで  
らえる」とが多く、その  
力をまざまざと見せつけ  
られてきた。取り組んで  
良かったと改めて満足を  
感じている」などと話  
した。

国内外の複数の水溶性珪素を、「含水力」「誘導率」「常磁性」という性命能の観点から検証しそこを報告。結合水はコロイドと水がくつづいてコロイダルとして動いている」「生体マトリックス珪素はコロイダルのものだ」と話した。続いて、立田准教授が「そのシリカ安全ですか?」と「非晶質の重要性とケイ素の抗糖化作用」をテーマに講演を行った。

市販されている天然シルク  
力水24サンプルの内、21  
サンプルから「結晶質  
素」が検出されたといふ  
併せて調べた、「牛糞  
マトリックスム」など  
植物由来水溶性ケイ素濃

「大切なのは、結晶質か非晶質か」ということ。  
結晶質の珪素は「発がん性の物質だが、非晶質の珪素は安全だ」などと主張した。

立田准教授は「大切なのは非晶質。大切なのはアモルファス」と改めて強調。「水溶性珪素は、結晶質・非晶質の問題を正しく理解し、信頼できるところのものを使つ必须要がある」と呼び掛けた。

その上で、天然シリカの水に関する最新の研究成果

昼食の前には、協賛業代表としてリンク（本社大阪府）の村田知寛社長が乾杯のあいさつを行った。

縮溶液「plant」  
mo (アラントウモ)  
からは、「結晶質珪素  
が検出されなかつた」と  
も報告した。  
立田准教授は「天然  
から安全ということはね  
い」と改めて説明した。  
立田准教授は、老化と  
主要な原因が、酸化と  
化である」とも解説。こ  
の両方の働きを持つ可  
性があるのが水溶性珪素  
だとした。  
水溶性珪素の抗糖化作  
用について想定されるこ

「水溶性ケイ素の単独投与で期待される臨床效果」をテーマに行つた。自身のクリニックで水溶性ケイ素を単独投与した臨床事例や、水にルボ酸と海藻由来のコイドヨウ素成分を加え製品を投与した臨床事例について報告した。講演の最後に高橋氏は、「私の仕事は目の前の患者を治すこと。ただ、なぜそのような効果が得られるのかといったことを、この会では学ばせり」つもりつおり非常にあぶがたい」と話した。

配合の機能性表示食品開発を目指し研究を進めていることを報告した。実施した臨床試験で、血圧に対する有用性が公表されたことを明らかにした。ストレスに対する有用性も示唆されたところ。